

あ と が き

学習指導要領全面実施まで2年と迫った本年度、本校では研究主題を「未来に生きて働く資質・能力の育成（1年次）～探究的な学びとカリキュラム・デザイン～」と定め、研究をスタートしました。

近年、「Society5.0」や「AI」、「ビッグデータ」や「IoT」、それに「EdTech」等、情報関連用語があふれ、我々が想像する以上に大変なスピードで情報化の波は押し寄せてきています。学校現場においては、子どもたちに、それらの情報技術や情報そのものを使いこなす力、そのような世の中を生き抜く力、リードする力を付けていくことが重要であると考えています。そのため、どの教科においても思考スキルを設定し、今回の学習指導要領で謳われている汎用的な「資質能力」を重視した授業実践を進めてきました。授業において、子どもが学習対象に没頭し、対象・他者・自己と対話しながら、仲間とともに探究する姿・省察する姿を創るため、どのような手立てを講じるかということ、我々教員も探究し、省察してきました。

私たちの実践研究に対しましては、多くの先生方にご指導、ご助言いただくことができたこと、心より御礼申し上げます。直接、貴重なご指導ご助言を賜りました國學院大學教授 田村学先生には、昨年度に引き続き、本校に来ていただきました。田村先生には、未来を切り拓いていくために必要な資質・能力を「探究力」と「省察性」の2つに絞って組織的に研究を進めてきた方向性については評価をいただくと同時に、「省察性」の位置付けの弱さや不明確さについて、ご指摘いただきました。今後、これらの成果を生かし課題を解決するために日々の実践を通じた研究を深め、子どもの学びの姿で立証していきたいと考えています。

今回、実践を紀要としてまとめることで、子どもに育まれた力を子どもの姿で検証したいと考えています。真摯に誠実に、職員一同取り組んでまいりましたが、まだまだ未熟で拙いものでもあります。今日まで、大勢の皆様からいただいたご意見・ご指導を糧に、今後も研究を進めていく所存です。多くの方々にご高覧賜り、ご教示、ご批正いただければ幸いに存じます。

副校長 中井 章博